

中濃農林事務所の普及活動状況 令和6年10月31日現在

ぎふ農業・農村を支える人材育成

■ 農業大学校 農業大学校2年生派遣学習支援

9月24日～10月27日まで、農業大学校2年生による先進農家等派遣学習が実施されており、当管内には野菜コース1名、果樹コース2名が現地実習等に取り組んでいる。

農業普及課は、派遣先の先進農家の選定と派遣受入れの依頼を行い、実施への支援を行った。

9月27日、10月8日、23日と現地巡回し、受入れ担当農家と農業大学校生それぞれに面会し、評価や感想などを聞き取った。

3名のうち2名は農業関係企業への就職、1名は受入れ農家への雇用就農の予定である。

農業大学校での農業者の育成と現地先進農家や営農組織等との交流を促進することで、今後も本県の農業者育成につながるよう取り組んでいく。

(地域支援係)



【意見交換】

■ 円空さといも 就農塾（さといもコース）収穫を体験

10月21日、関市内のさといも担い手ほ場において、JAめぐみのが主催する就農塾（さといもコース）が開催された。

今回は中濃管内2名の受講生が参加し、収穫時期を迎えたさといもの掘り取りを体験した。JAめぐみのや農業普及課が講師となり、掘り取りの方法や注意事項について説明し、さといも生産者の実際の作業の様子を見た後、掘り取りといもの切り離し作業を行った。受講生は、掘り取り作業や生産者への質問を積極的に行っていた。

農業普及課では、今後も引き続き就農塾の支援を行い、新規就農を目指す受講生がスムーズに就農できるよう支援していく。

(地域支援係)



【サトイモの掘り取り】

■ 女性農業経営アドバイザー GLAMAいきいきネットワーク視察研修会

令和6年度GLAMAいきいきネットワーク視察研修会が10月9日に富加町で開催され、県内の女性農業経営アドバイザーや関係者合わせて75名が参加した。

今年の研修会は、中濃ブロック女性農業経営アドバイザーが昨年度から準備を進めてきたもので、武儀地区の会員も管内のアドバイザー紹介資料の作成など活躍した。

研修会では、“農スタイル十人十色～多種多様な農業のあり方～”をテーマに、「色彩心理とマーケティング」の講演や富加町内の花き生産法人の視察、中濃ブロック会員の経営紹介等が行われた。参加した会員らは、相互に交流を図り、研修の内容を自分の経営に生かそうと積極的な様子が見え、充実した研修会となった。

今後は、武儀地区や中濃ブロック内での研修会も予定されていることから、農業普及課では引き続き女性農業経営アドバイザーの活動を支援していく。

(地域支援係)



【研修会の様子】

安心して身近な「ぎふの食」づくり

■水稻（採種） 生産物審査

9月26日より水稻採種ほ場の生産物審査を実施している。

生産物審査とは、ほ場審査を合格した水田で栽培された粳の発芽勢及び発芽率を審査するもので、発芽率90%以上が合格となり、種子として流通することとなる。

生産物審査では、基準に基づき、50℃の恒温器で粳の休眠打破を行い、シャーレに播種して25℃の恒温器にて培養し、経時的な発芽勢および発芽率を調査している。

5品種約270サンプルを12月末までに審査する計画であり、適正に生産物審査を実施し、水稻優良種子の確保につなげていく。

（地域支援係）



【生産物審査】

■ぎふ清流GAP更新審査の支援 国際水準を目指して！

10月23日、当管内で夏秋なす3S栽培に取り組む生産者が、ぎふ清流GAPの更新審査に挑んだ。

本県の夏秋なすは、輸出の対象となっている品目ではないが、東京オリンピック等の国際的なイベントへの食材提供には「必須」となりつつある現状をきっかけに、生産者の意欲は高い。

農業普及課では、農業経営課革新支援専門員の指導助言を受け、積極的な農業生産活動の改善等支援を行ってきたが、評価員の客観的な視点での指摘や助言により、新たな気づきにつながった。

長時間に渡る審査にもかかわらず、ご夫婦で参加され熱心に確認・改善に取り組み、国際水準GAP取得について理解を深めていただいた。

一次審査の結果報告を受けて、生産者が行う是正の支援を引き続き行っていく。また、今回評価を受けた生産者の改善事例等を他の生産者へ紹介し、管内のGAPの取り組みを推進していく。

（地域支援係）



【確認・審査】

ぎふ農畜水産物のブランド展開

■キウイフルーツ 目揃会の開催

10月22日、JAめぐみのほらどキウイフルーツ生産部会は、ほらどキウイフルーツ選果場で生産者、関係者等23名が集まり、来月から本格出荷が始まるキウイフルーツの目揃会を開催した。

JA担当者による出荷規格や注意事項等の説明に続き、キウイの品質を高めるため収穫後はすみやかに選果場に持ち込むこと、選果場でスムーズな選果ができるよう持込みに際して障害果等の選別をしっかりと行うことを確認した。

農業普及課では、収穫後の基肥の施用について、使用する資材や散布方法、土壌改良剤の施用について説明を行い、有機質肥料施肥体系の普及を図った。

（地域支援係）



【目揃会の様子】

■夏秋なす 外部視察研修

10月1日に、JAめぐみの夏秋なす協議会の視察研修会が開催され、愛知県幸田町の夏秋なす産地を訪問し、他産地の現状や栽培管理の方法を学んだ。中濃管内からは4名の生産者が出席した。

視察先では、栽培環境やなすの草勢、産地の代表者等からの説明を受け、生産者間で活発な意見交換が行われ交流が図られた。

農業普及課では、今年度の栽培経過を取りまとめるとともに、さらに生産者の関心が高まるよう情報提供を続けていく。

(地域支援係)



【ほ場視察の様子】

■花き 新品種導入への支援

10月15日、管内の花苗生産者を巡回し、試験栽培に取り組んでいる新品種の鉢花フランネルフラワーへの開花調節処理を指導した。

本県育成の鉢花フランネルフラワーは、主力品種が春に開花しやすい性質から、市場等が要望する秋冬出荷への対応が難しかった。そこで農業技術センターでは、植物調整剤に開花反応しやすい新品種を育成し、各地での栽培普及を目指している。

グランドカバープランツの苗生産を主体にしている当生産者は、高齢化した両親の労働力が望めなくなることを見通し、秋冬期に収益性の高い鉢花を導入したいと考え、次期は試験栽培の規模を拡大し本格導入を目指したいとの意向を示している。

農業普及課では、農業経営課及び農業技術センターの指導を仰ぎ、新品種フランネルフラワーの導入による経営安定化に向け支援を継続していく。

(地域支援係)



【圃場視察の様子】

中山間地域を守り育てる対策

■営農組織育成・法人化支援

10月18日に、関市多々羅地区の営農組織育成及び法人化についての検討会議が開催されたため出席した。

当地域では令和4年にはほ場整備事業が開始されており、現状は個々での耕作となっている細かなほ場を大区画化し合わせて営農組織を育成及び法人化することで、持続的かつ安定的な水田利活用営農の実現を目指している。

この日は、アグリチャレンジ支援センター呼びかけのもと、多々羅地区土地改良協議会、関市及び農業普及課が出席し、組織育成に向けた具体的な取り組み内容やスケジュールについて協議した。

当面は、組織育成に向けた地区説明やアンケート調査の実施など、土地改良協議会、関市と連携を密に図りアグリチャレンジ支援センターの指導支援を仰ぎながら、取り組みを開始していく。

(地域支援係)



【耕作エリアの確認】